

令和6年 第3回 定例会

令和6年第2回定例会以降における町政の主なものについてご報告申し上げます。

最初に、お手元に第2回定例会以降における工事発注一覧表を配付しておりますのでご照覧ください。

次に、要望活動についてご報告申し上げます。

まず、室蘭地方総合開発期成会としての要望活動についてですが、7月1日、2日には札幌要望として、北海道開発局、北海道など、また、7月23日、24日には中央要望として、国土交通省北海道局、道路局、財務省等をはじめ、道内選出国會議員に対し、令和7年度の国費等の要望を行いました。本町といたしましては、国道453号蟠溪道路の整備促進と交通安全施設等の整備、上久保内・幸内地区地すべり対策の推進、道道洞爺湖登別線の整備促進、有珠山外環状線の整備に伴う橋梁架け替えと道路整備の促進等について要望を行ったところであります。

7月24日、25日、北海道道路整備促進協会会員及び北海道防災協会委員として、東京都で開催された「令和7年度北海道開発予算に関する中央要請」に出席し、高速道路等を含む令和7年度の北海道の道路整備や道路予算の確保等について、国土交通省やNEXCO東日本などに要望を行いました。

8月9日、北海道自然公園協会副会長として、環境省や道内選出国會議員に対し、北海道の国立公園をはじめとする自然公園について、その適正な利用の促進や生物多様性の保全、施設整備等の予算確保などの要望活動を行いました。

また、壮瞥町の単独要望として、道道洞爺湖登別線のサンパレス工区における拡幅改良・歩道設置の早期完成、並びに、町道上立香第2線の道道昇格区間である道道滝之町伊達線の橋梁架け替えや線形・拡幅改良、道道洞爺湖公園洞爺線の仲洞爺から東湖畔地区における異常気象時通行規制の解消・道路幅員の確保等、有珠山外環状線の整備促進について、8月14日には、胆振総合振興局に要望を行うとともに、8月27日には、戸田道議會議員のご同行をいただき、北海道建設部に対し、要望活動を行ったところであります。

行政報告

はじめに、火山防災の日に係る啓発事業についてご報告申し上げます。

令和5年に活動火山対策特別措置法の一部が改正され、国民の間に広く活動火山対策についての関心と理解を深めるため、令和6年から8月26日を火山防災の日に制定されました。本町としてもこれに合わせ昭和新山の最初の噴火から80年を迎えた6月23日に昭和新山登山学習会、北海道大学名誉教授で町防災学識アドバイザーの岡田弘先生と三松正夫記念館三松三朗館長によるフォーラムを実施いたしました。

また、前回の有珠山噴火から24年が経過したことや近年の大雨、土砂災害の頻発化・激甚化等を踏まえ、今年度は4回にわたり防災教育、防災訓練を実施することとし、8月21日には、主に若手の職員を対象に町で保管する防災備蓄品、非常用発電機等の防災資機材操作方法の習得訓練と岡田先生、三松館長による防災講話を実施いたしました。

今後は9月18日に地域防災計画の習得、10月16日に過去の噴火時の町の対応などの防災講話、10月22日には本庁舎からそうべつ情報館への役場機能の機能移転訓練を予定しております。

次に令和6年度胆振地方消防訓練大会についてご報告申し上げます。

本大会は北海道消防協会胆振地方支部(支部長中山雄三氏)主催で3年に一度開催されるもので、今年度は6月26日に管内12消防団参加のもと安平町にて開催されました。

当訓練大会は、消防団員が迅速、確実かつ安全に行動するために定められた消防用機械器具の取扱い及び操作の基本についての技術を競う大会となっており、壮瞥消防団も小型ポンプ操法の部、ポンプ操法の部に各1チームが出場し、日頃の厳しい訓練の成果を遺憾なく発揮され、小型ポンプ操法の部で優勝、ポンプ操法の部で優良賞を受賞する優秀な成績を修められました。各団員の皆様のより一層のご活躍を期待しております。

次にふるさと逸品協定の締結についてご報告申し上げます。

7月30日に、壮瞥町地域交流センター山美湖において、大阪府泉佐野市と「ふる

さと逸品協定」を締結しました。

当日は、泉佐野市長と市職員3名が締結式に出席し、終了後には、道の駅そうべつ情報館 i、りんご果樹園及び昭和新山エリアへの視察や情報交換を行いました。

ふるさと逸品協定では、当町の「りんご・米」、泉佐野市の「水なす・泉州タオル」を、まちの逸品と位置づけ、互恵の立場で、逸品に関する交流を積極的に推進することとし、今後は、お互いの魅力をPRしていくことや、イベントでの相互交流を行いながら、本町にとって、有益な事業展開ができるよう努めてまいりたいと考えております。

次に、りんごまつりについてご報告申し上げます。

昨年のりんごまつりは、町の知名度向上や新たな来訪者の獲得を図るため、10月20日から1か月間、アニメゲームキャラクターとコラボしたスタンプラリー形式により開催され、新たな形態での初開催となりました。

昨年は、来訪された方が、町内の果樹園や道の駅等を巡り、さまざまな品種のリンゴをご購入いただくとともに、賞品として、町内の農産物や特産品をはじめ、リゾートホテルの宿泊券等を提供することで、町の知名度やブランドイメージの向上に繋がりました。また、アニメゲームキャラクターとのコラボにより、道内外問わず、遠方から数多くの方が来訪されました。

来訪された方や参加店から一定の評価をいただいたことから、今年もアニメゲームキャラクターとコラボしたスタンプラリー形式を維持しつつ、実行委員会では、関係団体や参加店のご意見等を踏まえ、参加店に観光スポットである有料入館施設を新たに加えるなど、町内周遊のきっかけとなるよう改善を図り、10月13日から11月17日までの約1か月間開催することとしております。

引き続き、りんごまつりが発展を遂げながら、持続的に開催できるよう継続的に支援してまいりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

次に、中学生フィンランド国派遣（海外研修）事業についてご報告申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類となった昨年度は、4年ぶりに本事業を再開したところであります。

本年度は、対象者を中学1年生及び2年生とし、7月30日からの8日間での事業

実施としました。

今回の派遣団は、中学生26名、高校生2名、引率者5名の総勢33名でケミヤルヴィ市でのホームステイなどを体験し、大きなトラブルがなく無事帰町することができました。

先月20日に参加した中学生代表より、「フィンランドの食文化や生活様式の違いなどを学習し、また、友好都市であるケミヤルヴィ市での貴重な体験は、今後に生かしていきたいと思います。」と報告を受け、改めて事業実施の意義を感じたところです。

来年度は、平成29年度以来8年ぶりにケミヤルヴィ市より壮瞥町に派遣する計画があるということをお聞きしていますので、実現した際には心から歓迎したいと考えています。

今後につきましては、本事業は隔年での実施となりますが、引き続きフィンランド国ケミヤルヴィ市との友好都市関係を保ち、より良い交流を継続していきたいと考えていますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

次に、地域活性化起業人についてご報告申し上げます。

そうべつアウトドアネットワークは、令和6年4月に一般社団法人を設立し、これまで培ってきたアウトドアスポーツやアクティビティを商品化していくために、地域活性化起業人として東京都の会社役員、都我剛之さんが7月1日付で着任しました。

総務省の制度である地域活性化起業人制度は、3大都市圏（東京、名古屋、大阪）にある民間企業が、地方自治体の要望に応じて、社員を一定期間派遣し、地方自治体独自の魅力や価値の向上と地域活性化につながる業務を担当する制度で最大3年間継続が可能で、その経費は特別交付税措置されます。

都我さんは、大阪府出身で中小企業診断士の資格を有しており、以前より法人化に向けたワークショップ等でアドバイスをいただいたり、壮瞥町の地域資源を生かしたコンテンツの創出などで力を貸していただいております。

今後はそうべつアウトドアネットワークで事務局業務を担っていただき、アウトドア商品の開発や商品プロモーションなど幅広く活躍していただきたいと考えていますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

次にそうべつ温泉病院地域医療に関する地域説明会の開催についてご報告申し上げます。

そうべつ温泉病院が本年11月1日に伊達市内に移転されるということで、令和6年7月11日に壮瞥町農村環境改善センターで地域医療に関する地域説明会を開催しました。

説明会には、15名の町民の方が参加したほか、そうべつ温泉病院から合地研吾院長先生を始め、5名の職員の方が説明に参加してくださいました。

説明会では、そうべつ温泉病院からは、病院移転の経緯等、壮瞥町からは、今後の地域医療を確保するため、久保内診療所を開設する旨の説明をさせていただきました。

町民の方からは、「病院がなくなるのは残念」、「40数年、地域を守ってくれて感謝する」といった、移転を惜しんだり、今までの地域貢献への感謝の声が寄せられました。

そうべつ温泉病院は、昭和57年12月に開設され、地域医療はもとより、雇用、定住人口維持、地域経済などに、大きく貢献いただけてきました。地域医療では、外来診療、訪問診療・看護、リハビリサービス等を提供いただいているほか、特定健診や予防接種、学校医として児童・生徒の内科検診を実施されるなどの地域貢献活動も行ってきていただきました。

そうべつ温泉病院からは、今回、病院は伊達市内に移転しますが、壮瞥町民の医療は必ず守りますというお言葉や、学校医や、インフルエンザ等のワクチン接種も可能な限り引き受けますとのお話しをいただいております。

壮瞥町としては、そうべつ温泉病院が伊達市内に移転した後も、相互協力しながら、これからの地域医療の確保に努めたいと考えております。

以上、令和6年第2回定例会以降における町政の主なものについてご報告といたします。